



文化作品展に向けて皆さん真剣です

私たちは、世界的な流行をみる感染症や季節性の病気等から利用者様や施設を守り、地域の皆様が安心・安全にご利用いただけるように緊張感を持ちながら手洗いの実施、マスクの着用、換気・消毒など励行しております。

当初は、目に見えないものを相手にする対応策ですら想像し難く、苦慮する毎日でした。

そんな中、職員の間でも、ケアを提供させていただく環境を守る予防策の理解が進み、自分達が自覚のないまま感染源とならないように、生活での注意の認識ができるようになってきました。

私たちも日々、利用者様と向き合う中で対面でのご家族様との気持ちの行き来ができない事に心苦しさを感ぜざるを得ません。

少しでも利用者・ご家族様との気持ちの橋渡しをするべく、季節や食事から昔の思い出話などを引き合いに對話を重ね、その笑顔や所作が伝わるよう、毎日のかわりを大切にしております。日頃の様子をお伝えする事で、お互いの安心材料を一つでも増やしていただけるよう、取り組んでいます。

今までのように当たり前に自由に行き来できるよう、今という時を大切に、出来る限りの対応策で工夫しながら、

それいゆ 広報

Vol.128

医療法人同仁会

- 介護老人保健施設 それいゆ
TEL0577-35-3030
- 桐生クリニック
TEL0577-35-3880 FAX (共通) 0577-35-3063
- 折茂医院
TEL0577-34-5025
- それいゆ訪問看護ステーション
TEL0577-37-5260
- ヘルパーステーション それいゆ
TEL0577-37-3360
- 病児保育室プティそれいゆ
TEL0577-35-2525
- ケアプランセンター それいゆ
TEL0577-35-3770
- ショートステイ それいゆ
TEL0577-35-0710
- シャロン・ド・それいゆ
TEL0577-34-5026
- Dr.Orishige ビオメゾン
TEL0577-37-0800
- デイサービスセンター れぞみ
TEL0577-37-5666
- りあん・ど・それいゆ
TEL0577-32-8166



**看護介護部長代行
(支援相談員)**

中屋 寿香子

皆様と共に前に進んでいきたいと思っております。

皆様には、引き続きご不便をおかけ致しますが、どうぞご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

岐阜県ワークライフバランス推進企業に 認定されました

十二月一日に「岐阜県ワークライフバランス推進企業」として医療法人同仁会が認定を受けました。

現在もWLBに関する取り組みや年休取得状況の把握、取得促進、育児介護支援、女性の活躍推進などに積極的に取り組み、エクセレント企業認定を目指していきます。

※「安心して子どもを産み育てることができること」ができる岐阜県条例(平成十九年岐阜県条例第十一号)の精神を理解し、自社従業員のワークライフバランス推進に積極的に取り組む企業に対し、岐阜県が「岐阜県ワークライフバランス推進企業」として登録したことを証するために交付するもの。



感染予防研修会

十一月九日・十八日

看護介護部4階看護主任
感染防止対策担当者

今井靖子



介護施設は、免疫力が低下している高齢の方が集団で生活する場所です。よって感染が広がりやすい状況です。そのような場所だからこそ、感染リスクを抑えるために、感染症対策のルールをつくり、感染症に対する職員の意識、知識の向上や予防が重要です。当法人 同仁会では、全職員を対象に年一回以上の感染予防の研修会を行

っています。例年は、施設内の看護師が講師となり行っていました。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染の拡大が懸念されるなか、大きな危機感があり、専門家による研修会を企画しました。講師には地方独立行政法人 岐阜県立下呂温泉病院で院内感染対策室に専従されている感染管理認定看護師 山下由起子さんをお招きしました。『いつでも標準予防策と接触・飛沫予防策／新型コロナウイルスもインフルエンザもノロウイルスも』と題し、十一月九日、十八日の二回、研修会を開催しました。のべ百五十人程の職員が参加し、感染症予防の知識を深め、正しい感染予防の方法を学ぶことができました。

職員一人ひとりが正しい知識を持ち、標準予防策と接触・飛沫予防策を実践することで、高い確率で感染症の発生を防ぐことができると考えています。また同時に大切なのは、日々のケアです。おいしく食事をとってもらい、身体を清潔に保ち、レクリエーションで笑っていたり、毎日をいきいきと楽しく過ごしていただくことで免疫力の向上が期待できます。そんな楽しい時間をつくり共有し、やりがいと責任をもって、このコロナ渦を利用者様と一緒に毎日笑顔で過ごしていきたいと思っています。

通所リハビリテーションのブログをはじめました

通所室介護長 白川浩代



コロナ渦の中、通所リハビリでも様々な対策を講じています。その中にご利用者様やご家族様が飛騨圏外の方との接触があった際には二週間のお休みをお願いしております。圏外のお子さんやお孫さん等にも帰省を遠慮して頂くなどのご協力をして頂きます事、この場を借りてお礼申し上げます。

自粛しておりますので、ブログを通してご利用者様がどのような様子で過ごしておられるのか、またどんな所なのかを知って頂きたいと思っています。今後はご了承を得た上でご利用者様のお顔を掲載させて頂き、遠方のご家族様にも様子をお伝えするツールとしてご利用して頂ければ幸いです。先の見えない不安な状況ですが、通所リハビリに来て頂いている時間が楽しいものとなりますようスタッフ一同頑張ります。

通所リハビリテーションのブログへはこちらのQRコードよりアクセス出来ます



SDGsから考える病児保育のありかた

ブティそれいゆ
病児保育室管理者 白田陽子

十二月十二日、高山市主催のSDGsシンポジウムにパネリストとして登壇させていただくことになりました。

高山市でも持続可能なまちづくり実現のため、SDGs推進にむけた様々な取り組みがなされているなかで、病児保育事業は市の「子どもにやさしいまちづくり計画」の中に位置づけられ、仕事と子育ての両立の面から子育て世代の市民の暮らしやすさや地域経済の循環に貢献しようとしている事業です。

高山市に病児保育が開設されて約十年間病児保育事業に携わる中で、子育て世代を取り巻く状況も刻々と変化してきていると感じています。少子化はもとより核家族化や高齢化が進む中での子育ての孤立化やダブルケアの問題、虐待や貧困ももはや都会だけのものではありません。

そんな中で病児保育室が担う役割も、ただ病気の時に児童を預かる場ではなくなってきたと思います。

なにかあったら相談したい。支えてほしい。つないでほしい。正しい情報が欲しい。なにより育児を楽しみたいと感じたい！病児保育室は、そんな場面での受け皿となつて初めて「暮らしやすいまちづくり」に貢献していると言えると思うのです。

一方で、病児保育室で一日の大半を過ごすことになる子どもたち。私はこの子どもたちの育ちを支える立場でもあるということを感じたいと思っています。子どもはたとえ病気であっても毎日が成長の一ページ。たった一日の出会いの中であっても、ここで感じたことがその児童の生きる力を支える可能性だってあるのです。不安な気持ちにより添う暖かいまなざしや優しい声かけ、病気による不快感をやわらげる手のぬくもり、自己肯定感を高める関わり。私たち病児保育スタッフには保育看護の技術を磨くだけでなく、一人ひとりが人として成長することが求められています。



究極のSDGsの到達目標は「だれひとり取り残されることのない社会の実現」です。私はこれからも様々な方面にアンテナを張りながら、暮らしやすい街づくりに貢献したいと考えています。

ほっとカフェ・オレンジ
シャロン・ド・それいゆ管理者 牧田 功

全国でコロナの感染拡大予防のための自粛に伴いほっとカフェオレンジも四月よりお休みしておりました。

本年八月、コロナの感染が落ち着いてきたことを受け、ほっとカフェオレンジの再開。担当も『認知症デイサービス』より『シャロン・ド・それいゆ』に変更する事となりました。

オレンジカフェとは。ネットには「認知症の患者や家族、地域の人等が集まり、情報交換したりおしゃべりを楽しんだりする場所のこと。お茶を飲みながら心配事を相談でき専門のアドバイスも受けられる一種のコミュニティである。」と説明されています。再開して三カ月が過ぎましたが、どのような内容で開催すればよいか試行錯誤しております。現在参加者は十三人前後ですが、コロナへの対策としてのソーシャルディスタンスを考えると限界ではないかと思っております。

今後、参加者の意見も参考にしながら楽しいひと時、「ホッ」として時間が過ぎるような場にしていきたいと思っております。与薬等必要ありませんのでお気軽に参加して下さい。

高山市SDGsシンポジウム

高山の未来を築く
これからのパートナーシップ

令和2年 12月12日(土)

14:00~16:30(受付13:15~)

飛騨・世界生活文化センター
食道館B1F 大会議室(高山市千鳥町900-1)

事前申込制

申込み方法は
裏面をご覧ください。参加費
無料
会場定員
80名
(申込順)オンライン
(Zoom)
参加可

新型コロナウイルス感染症の拡大によって様々な社会経済活動が制約されるようになりました。社会や環境が大きく変わろうとしている今、50年、100年先の未来を見据えて、持続可能な高山市を実現するための「希望」を語るシンポジウムを開催します。

このシンポジウムでは、SDGs(国際社会全体で取り組む持続可能な開発目標)時代のパートナーシップで目指す環境・社会・経済の調和のとれた高山市の未来像を議論し、活力とやさしさあふれる飛騨高山の未来を築く「行動の輪」を広げる契機とします。

第1部 基調講演

「SDGsのパートナーシップで循環型社会を実現する」

講師 細田 衛士氏 中部大学 経営情報学部教授、慶應義塾大学 名誉教授

1953年生まれ、慶応義塾大学経済学部卒業後、同大学経済学部助手、助教授を経て、94年より教授。2001年から2005年まで同大学経済学部長を務めた。中央環境審議会委員や環境省政策評価委員会委員なども兼任する。2019年4月より中部大学教授、2020年4月より同大学経営情報学部長。



第2部 パネルディスカッション

パネリスト

長瀬 雅彦氏
株式会社長瀬土建
代表取締役白田 陽子氏
医療法人同仁会
病児保育室ブティそれいゆ
管理者清原 清太郎氏
株式会社駿河屋
代表取締役

コメンテーター

中村 健史氏
中部大学 客員教授、前高山市教育長竹内 ゆみ子氏
認定NPO法人まちづくりボスト 代表理事

ファシリテーター

古澤 礼太氏
中部大学 国際ESD・SDGsセンター 准教授SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

主催：高山市
共催：中部大学 (一財)飛騨高山大学連携センター
本シンポジウムは、第25回中部大学ESD・SDGsシンポジウムとして開催します。

文化祭作品展示

11月12～18日



年末時記



ステイ老健で作品作りに集中できました！



干支にちなんだ作品や個性豊かな力作が勢揃い！



さるぼぼも
感染対策やぞー！

さるぼぼ 10月8日



飛騨のさるぼぼ製造協同
組合様が寄贈されました

4Hクラブ 10月23日



丹精込めて育てられた野菜やお米、
美味しくいただきました

りんご風呂 11月9～11日



堤果樹園様から今年も
真っ赤なリンゴを沢山
いただきました。甘～
い香りに癒されました

二〇二〇年 レザミびだメディケガーデン文化展

★作品展と秋の一日カフェ★

期間：十一月十六日(月)～十二月二十一日(金)

今年の文化展はコロナ禍の中、施設利用者様を対象にかなり縮小して行いました。

「作品展」は、各事業所ごとに春から利用者様と作成してきた力作を展示しました。

紙で作った鳥居の中に、賽銭箱や紙で作った小銭があり、実際にお賽銭を入れて楽しめる作品から、芸術的な水墨画、墨彩画まで芸術の秋を堪能させていただきました。

「秋の一日カフェ」は、赤や黄色に色づいたイチヨウやもみじ、桜などの落ち葉で壁や窓にデコレーションし、秋をいっぱい感じていただける雰囲気を作りました。ご利用者様には三密を避けていただながら、お好きな飲み物とみかんケーキを召し上がっていただき秋の一日を楽しみました。





スタッフ大募集

Dr.が
24時間対応
だから夜勤も
安心です

産・育休等、
安心の
福利厚生

パート希望の
方は
ご相談下さい

子育て中でも
職場のスタッフの
フォローしますので
仕事がしやすい
環境です

20～70才代まで
幅広い年代が在職し
家族のような
雰囲気です

《募集求人》

- ① 理学療法士（介護老人保健施設・訪問看護ステーション）
- ② 看護職（通所リハビリテーション・デイサービス）
- ③ 介護職（小規模多機能・有料老人ホーム・ヘルパーステーション）



- 資格／18歳以上（介護職は資格不問）
- 時間／シフト制（応相談）
- 給与／当法人の規定による
- 休日／1ヵ月単位の変形労働時間制、年間休日105日
- 社会保険完備、各種手当有り、福利厚生有り



場し、日常でも耳にしない日は
ないほどでした。世相を衝く表
現として鑑みると、まさにコ
ナウィルスに翻弄された年だっ
た気がします。今、地球規模で
様々な事象を考えねばならない
時代において本当に取り組むべ
き事を生活の中で正しく理解
し、正しく努めることで感染症
に関するストレスも軽減し、よ
り良い生活スタイルとなってい
くと思います。一日でも早く
感染症の予防も経済の回復も良
好な状態となることを願いま
す。

編集後記

先日、民間会
社が主催する今
年の流行語大賞
が発表になりま
した。「三密」だ
そうです。何度
もメディアに登
場し、日常でも耳にしない日は
ないほどでした。世相を衝く表
現として鑑みると、まさにコ
ナウィルスに翻弄された年だっ
た気がします。今、地球規模で
様々な事象を考えねばならない
時代において本当に取り組むべ
き事を生活の中で正しく理解
し、正しく努めることで感染症
に関するストレスも軽減し、よ
り良い生活スタイルとなってい
くと思います。一日でも早く
感染症の予防も経済の回復も良
好な状態となることを願いま
す。